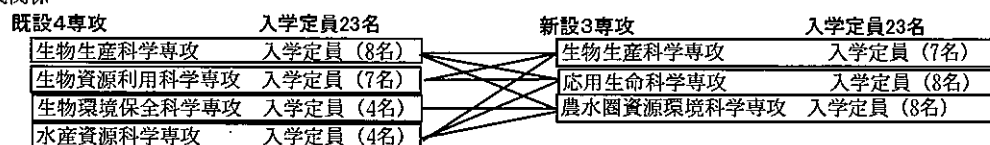


設置計画の概要

大学の名称		鹿児島大学			計画の区分		事前伺い			
							研究科の専攻設置			
新設学部等の状況 (学年進行終了時における状況)										
学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授
連合農学研究科	生物生産科学専攻(D)	7		21	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	平成21年度	生物生産科学専攻(D)	52	30
								生物資源利用科学専攻(D)	1	1
								水産資源科学専攻(D)	4	2
								新規採用予定	6	4
	応用生命科学専攻(D)	8		24	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	平成21年度	生物生産科学専攻(D)	4	1
								生物資源利用科学専攻(D)	40	23
								水産資源科学専攻(D)	7	1
								新規採用予定	6	6
	農水圏資源環境科学専攻(D)	8		24	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	平成21年度	生物生産科学専攻(D)	12	7
								生物環境保全科学専攻(D)	38	20
								水産資源科学専攻(D)	27	17
								新規採用予定	7	6
既設学部等の状況 (現在の状況)										
学部等の名称	学科等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設年度	専任教員		
					学位又は称号	学位又は学科の分野		異動先	助教以上	うち教授
連合農学研究科	生物生産科学専攻(D) (廃止)	8		24	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	昭和63年度	生物生産科学専攻(D)	52	30
								応用生命科学専攻(D)	4	1
								農水圏資源環境科学専攻(D)	12	7
								退職	6	4
	生物資源利用科学専攻(D) (廃止)	7		21	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	昭和63年度	生物生産科学専攻(D)	1	1
								応用生命科学専攻(D)	40	23
								退職	2	2
	生物環境保全科学専攻(D) (廃止)	4		12	博士(農学) 博士(学術)	農学関係	昭和63年度	農水圏資源環境科学専攻(D)	38	20
								退職	7	6
	水産資源科学専攻(D) (廃止)	4		12	博士(農学) 博士(学術) 博士(水産学)	農学関係	昭和63年度	生物生産科学専攻(D)	4	2
								応用生命科学専攻(D)	7	1
								農水圏資源環境科学専攻(D)	27	17
								退職	4	4

【備考欄】

① 相関関係



② 基幹大学 鹿児島大学 参加大学 佐賀大学・琉球大学

教 育 課 程 等 の 概 要

(連合農学研究科 生物生産科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究通科目	農学特別講義Ⅰ (一般セミナー)	1, 2	2			○			37	26				農学特別講義Ⅱ (特別セミナー) については、多地点遠隔講義システムを利用する。(詳細については、編成方針Ⅱ. 5に記入)
	農学特別講義Ⅱ (特別セミナー)	1, 2		2		○			37	26				
	小計 (2科目)	-	2	2			-		37	26				
専門分野科目	熱帯資源・植物生産科学特別講義	1, 2		1		○			15	12			選択科目の中から2単位以上履修する。	
	熱帯資源・植物生産科学特論	1, 2		1		○			15	12				
	動物資源生産科学特別講義	1, 2		1		○			10	8				
	動物資源生産科学特論	1, 2		1		○			10	8				
	地域・国際資源経済学特別講義	1, 2		1		○			12	6				
	地域・国際資源経済学特論	1, 2		1		○			12	6				
小計 (6科目)	-	0	6			-		37	26					
論文研究等科目	熱帯資源・植物生産科学特別演習	1, 2	2				○		15	12			所属する連合講座の特別演習、特別研究の8単位を履修する。	
	熱帯資源・植物生産科学特別研究	1, 2, 3	6				○		15	12				
	動物資源生産科学特別演習	1, 2	2				○		10	8				
	動物資源生産科学特別研究	1, 2, 3	6				○		10	8				
	地域・国際資源経済学特別演習	1, 2	2				○		12	6				
	地域・国際資源経済学特別研究	1, 2, 3	6				○		12	6				
小計 (6科目)	-	24				-		37	26					
広領域科目	国際農学特別講義	1, 2, 3		1		○			37	26			国際農学特別講義は、各構成大学で開講し、講義は英語で実施する。	
	人材養成学生支援セミナー	2		1		○			37	26				
	小計 (2科目)			2			-		37	26				
合計 (16科目)		-	26	10			-		37	26				
学位又は称号	博士(農学)、博士(学術)、博士(水産学)		学位又は学科の分野				農学関係							
設 置 の 趣 旨 ・ 必 要 性														
I 設置の趣旨・必要性														
1. 教育研究上の理念、目的 地域固有の生物生産が活発に行われている九州・沖縄において構成大学の教員組織、研究施設及び設備を連合して教育体制を作り、生物生産、生物資源の開発・利用・保全並びにバイオサイエンスに関する高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者の養成を目指す。														
2. どのような人材を養成するのか。 農産物の生産向上と熱帯・亜熱帯資源の活用、農林水産物の流通と国際政策、食料生産システムの構築、品種改良及び新作物の創生、効率的な家畜生産において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた人材を養成する。														
II 教育課程編成の考え方・特色														
1. 専門分野科目として、熱帯資源・植物生産科学、動物資源生産科学、地域・国際資源経済学分野の研究者・専門家を養成するために重要となる授業科目を設置し、先端及び最新の学術研究に関する講義を開講する体制を整える。														
2. 農学特別講義Ⅰ (共通セミナー) は構成3大学の学生を同時に受講させる集中講義形式の講義である。講師は内部教員及び外部から選定し、分野の異なる学生が十分理解できる工夫をし、先端的でトピック性のある内容とする。講義は英語と日本語で行い、本講義開催中に学生の研究発表及び情報交換アワーを設け、プレゼンテーション能力を身に付けさせると共に博士論文作成に向けたガイダンスを行う。														
3. 教育プログラムは特別講義、特論、特別演習、特別研究を単位化とすることにより、計画的、段階的に博士論文の作成を進める。(従前の教育プログラムは、必要な研究指導を受け、かつ、60時間以上の共通セミナーの受講)														
4. 生物生産科学特論及び国際農学特別講義は、主に社会人を対象として、目的性のある講義を行い、研究者として必要な幅広い知識・能力を身につけることができる講義とする。														
5. 農学特別講義Ⅱ (特別セミナー) は全国6つの農学連合研究科が合同で行う、集中講義形式授業であり、年2回(前期、日本語;後期、英語)開講する。本講義はサイネット3を利用した東京農工大学が主幹大学として設置する「多地点遠隔授業システム」(平成19年度より国立情報学研究所によって運用されるSENET3高帯域ネットワークを用いて全国6連合農学研究科を双方向に接続し、高解像度画質で講義内容、資料情報等を高精細に映し出すことが可能な遠隔講義システム)を活用し、6連合農学研究科が連携して、高い専門性、幅広い分野の講師を選定して行う。														
6. 人材養成学生支援セミナーを開講し、各専攻における学生の研究支援、国際感覚の養成、就職支援等を行う。その中に、熱帯・亜熱帯資源活用論を設け、国際的な熱帯・亜熱帯の生物生産管理者を養成する。														
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
所定の授業科目を履修して12単位以上(必修科目10単位、選択科目2単位以上)を修得し、かつ、中間発表を経て博士の学位論文を研究科で審査し、合格した者。								1学年の学期区分		2		期		
								1学期の授業期間		15		週		
								1時限の授業時間		90		分		

教 育 課 程 等 の 概 要

(連合農学研究科 応用生命科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究通科目	農学特別講義Ⅰ (一般セミナー)	1, 2	2			○			31	26				農学特別講義Ⅱ (特別セミナー) については、多地点遠隔講義システムを利用する。(詳細については、編成方針Ⅱ、5に記入)
	農学特別講義Ⅱ (特別セミナー)	1, 2		2		○			31	26				
	小計 (2科目)	-	2	2			-		31	26				
専門分野科目	生物機能化学特別講義	1, 2		1		○			10	7			選択科目の中から2単位以上履修する。	
	生物機能化学特論	1, 2		1		○			10	7				
	食品機能科学特別講義	1, 2		1		○			14	9				
	食品機能科学特論	1, 2		1		○			14	9				
	先端応用生命科学特別講義	1, 2		1		○			7	10				
	先端応用生命科学特論	1, 2		1		○			7	10				
小計 (6科目)	-	0	6			-		31	26					
論文研究等科目	生物機能化学特別演習	1, 2	2				○		10	7			所属する連合講座の特別演習、特別研究の8単位を履修する。	
	生物機能化学特別研究	1, 2, 3	6				○		10	7				
	食品機能科学特別演習	1, 2	2				○		14	9				
	食品機能科学特別研究	1, 2, 3	6				○		14	9				
	先端応用生命科学特別演習	1, 2	2				○		7	10				
	先端応用生命科学特別研究	1, 2, 3	6				○		7	10				
小計 (6科目)	-	24				-		31	26					
広領域科目	国際農学特別講義	1, 2, 3		1		○			31	26			国際農学特別講義は、各構成大学で開講し、講義は英語で実施する。	
	人材養成学生支援セミナー	2		1		○			31	26				
	小計 (2科目)			2					31	26				
合計 (16科目)		-	26	10	0		-		31	26				
学位又は称号	博士 (農学)、博士 (学術)、博士 (水産学)		学位又は学科の分野			農学関係								
設 置 の 趣 旨 ・ 必 要 性														
<p>I 設置の趣旨・必要性</p> <p>1. 教育研究上の理念、目的 地域固有の生物生産が活発に行われている九州・沖縄において構成大学の教員組織、研究施設及び設備を連合して教育体制を作り、生物生産、生物資源の開発・利用・保全並びにバイオサイエンスに関する高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者の養成を目指す。</p> <p>2. どのような人材を養成するのか。 生物資源の有効活用、未利用資源および廃棄物の有効利用、食品の機能開発、食の安全管理、食と健康、先端的バイオサイエンスとバイオテクノロジー、分子から個体に至る機能開発において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた人材を養成する。</p> <p>II 教育課程編成の考え方・特色</p> <p>1. 専門分野科目として、生物機能化学、食品機能科学、先端応用生命科学分野の研究者・専門家を養成するために重要となる授業科目を設置し、先端及び最新の学術研究に関する講義を開講する体制を整える。</p> <p>2. 農学特別講義Ⅰ (共通セミナー) は構成3大学の学生を同時に受講させる集中講義形式の講義である。講師は内部教員及び外部から選定し、分野の異なる学生が十分理解できる工夫をし、先端的でトピック性のある内容とする。講義は英語と日本語で行い、本講義開催中に学生の研究発表及び情報交換アワーを設け、プレゼンテーション能力を身に付けさせると共に博士論文作成に向けたガイダンスを行う。</p> <p>3. 教育プログラムは特別講義、特論、特別演習、特別研究を単位化とすることにより、計画的、段階的に博士論文の作成を進める。(従前の教育プログラムは、必要な研究指導を受け、かつ、60時間以上の共通セミナーの受講)</p> <p>4. 応用生命科学特論及び国際農学特別講義は、主に社会人を対象として、目的性のある講義を行い、研究者として必要な幅広い知識・能力を身につけることができる講義とする。</p> <p>5. 農学特別講義Ⅱ (特別セミナー) は全国6つの農学連合研究科が合同で行う、集中講義形式授業であり、年2回 (前期、日本語; 後期、英語) 開講する。本講義はサイネット3を利用した東京農工大学が主幹大学として設置する「多地点遠隔授業システム」(平成19年度より国立情報学研究所によって運用されるSENET3高帯域ネットワークを用いて全国6連合農学研究科を双方向に接続し、高解像度画質で講義内容、資料情報等を高精細に映し出すことが可能な遠隔講義システム)を活用し、6連合農学研究科が連携して、高い専門性、幅広い分野の講師を選定して行う。</p> <p>6. 人材養成学生支援セミナーを開講し、各専攻における学生の研究支援、国際感覚の養成、就職支援等を行う。その中に、先端生命科学論及び食品安全管理論を設け、最先端のバイオテクノロジー及び食の安全マネージャーをそれぞれ養成する。</p>														
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
所定の授業科目を履修して12単位以上(必修科目10単位、選択科目2単位以上)を修得し、かつ、中間発表を経て博士の学位論文を研究科で審査し、合格した者。						1学年の学期区分		2期						
						1学期の授業期間		15週						
						1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(連合農学研究科 農水圏資源環境科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実習	教授	准教授	講師	助教		助手
研究通科目	農学特別講義Ⅰ(一般セミナー)	1,2	2			○			50	32	2			農学特別講義Ⅱ(特別セミナー)については、多地点遠隔講義システムを利用する。(詳細については、編成方針Ⅱ-5に記入)
	農学特別講義Ⅱ(特別セミナー)	1,2		2		○			50	32	2			
	小計(2科目)	-	2	2			-		50	32	2			
専門分野科目	生物環境保全科学特別講義	1,2		1		○			19	10	1			選択科目の中から2単位以上履修する。
	生物環境保全科学特論	1,2		1		○			19	10	1			
	地域資源環境工学特別講義	1,2		1		○			15	12				
	地域資源環境工学特論	1,2		1		○			15	12				
	水産資源環境科学特別講義	1,2		1		○			16	10	1			
	水産資源環境科学特論	1,2		1		○			16	10	1			
小計(6科目)	-	0	6			-		50	32	2				
論文研究等科目	生物環境保全科学特別演習	1,2	2				○		19	10	1			所属する連合講座の特別演習、特別研究の8単位を履修する。
	生物環境保全科学特別研究	1,2,3	6				○		19	10	1			
	地域資源環境工学特別演習	1,2	2				○		15	12				
	地域資源環境工学特別研究	1,2,3	6				○		15	12				
	水産資源環境科学特別演習	1,2	2				○		16	10	1			
	水産資源環境科学特別研究	1,2,3	6				○		16	10	1			
小計(6科目)	-	24				-		50	32	2				
広領域科目	国際農学特別講義	1,2,3		1		○			50	32	2			国際農学特別講義は、各構成大学で開講し、講義は英語で実施する。
	人材養成学生支援セミナー	2		1		○			50	32	2			
	小計(2科目)	-		2					50	32	2			
合計(16科目)		-	26	10	0		-		50	32	2			
学位又は称号	博士(農学)、博士(学術)、博士(水産学)		学位又は学科の分野			農学関係								
設 置 の 趣 旨 ・ 必 要 性														
Ⅰ 設置の趣旨・必要性														
1. 教育研究上の理念、目的 地域固有の生物生産が活発に行われている九州・沖縄において構成大学の教員組織、研究施設及び設備を連合して教育体制を作り、生物生産、生物資源の開発・利用・保全並びにバイオサイエンスに関する高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者の養成を目指す。														
2. どのような人材を養成するのか。 農水圏における食料資源環境の整備・保全、食料生産の向上及び貯蔵・輸送の効率化、農作物の生物防御、森林環境の保全と資源保護、水産資源および環境の保全において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識をそなえた人材を養成する。														
Ⅱ 教育課程編成の考え方・特色														
1. 専門分野科目として、生物環境保全学、地域資源環境工学、水産資源環境学分野の研究者・専門家を養成するために重要となる授業科目を設置し、先端及び最新の学術研究に関する講義を開講する体制を整える。														
2. 農学特別講義Ⅰ(共通セミナー)は構成3大学の学生を同時に受講させる集中講義形式の講義である。講師は内部教員及び外部から選定し、分野の異なる学生が十分理解できる工夫をし、先端的でトピック性のある内容とする。講義は英語と日本語で行い、本講義開催中に学生の研究発表及び情報交換アワーを設け、プレゼンテーション能力を身に付けさせると共に博士論文作成に向けたガイダンスを行う。														
3. 教育プログラムは特別講義、特論、特別演習、特別研究を単位化とすることにより、計画的、段階的に博士論文の作成を進める。(従前の教育プログラムは、必要な研究指導を受け、かつ、60時間以上の共通セミナーの受講)														
4. 農水圏資源環境科学特論及び国際農学特別講義は、主に社会人を対象として、目的性のある講義を行い、研究者として必要な幅広い知識・能力を身に付けることができる講義とする。														
5. 農学特別講義Ⅱ(特別セミナー)は全国6つの農学連合研究科が合同で行う、集中講義形式授業であり、年2回(前期、日本語;後期、英語)開講する。本講義はサイネット3を利用した東京農工大学が主幹大学として設置する「多地点遠隔授業システム」(平成19年度より国立情報学研究所によって運用されるSENET3高帯域ネットワークを用いて全国6連合農学研究科を双方向に接続し、高解像度画質で講義内容、資料情報等を高精細に映し出すことが可能な遠隔講義システム)を活用し、6連合農学研究科が連携して、高い専門性、幅広い分野の講師を選定して行う。														
6. 人材養成学生支援セミナーを開講し、各専攻における学生の研究支援、国際感覚の養成、就職支援等を行う。その中に、生態環境保護論及び食品安全管理論を設け、グローバルな環境保全指導者及び食の安全スペシャリスト・マネジャーをそれぞれ養成する。														
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
所定の授業科目を履修して12単位以上(必修科目10単位、選択科目2単位以上)を修得し、かつ、中間発表を経て博士の学位論文を研究科で審査し、合格した者。								1学年の学期区分		2		期		
								1学期の授業期間		1.5		週		
								1時限の授業時間		9.0		分		

鹿兒島大学大学院連合農学研究科教育課程の新旧対照表

科目区分	科目名	単位数	講義時間	講義方式	必修 ○ 選択 ●	担当教員	受講予定年次		
							1年次	2年次	3年次
研究科共通	農学特別講義Ⅰ(一般セミナー)	2	30	集中講義	○	構成大学教員 外部講師	○	○	○
	農学特別講義Ⅱ(特別セミナー)	2	30	集中講義 遠隔授業システム	●	構成大学教員 6連大共通	○	○	○
専門分野	熱帯資源・植物生産科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	動物資源生産科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	地域・国際資源経済学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	熱帯資源・植物生産科学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	動物資源生産科学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	地域・国際資源経済学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	生物機能化学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	食品機能科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	先端応用生命科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	生物機能化学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
科目	先端応用生命科学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	食品機能科学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	生物環境保全科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	地域資源環境工学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	水産資源環境科学特別講義	1	15	通常講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	地域資源環境工学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	地域資源環境工学特論	1	15	集中講義	●	専攻教員(4名)	○	○	○
	熱帯資源・植物生産科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	動物資源生産科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	地域・国際資源経済学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
論文研究等	熱帯資源・植物生産科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	動物資源生産科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	地域・国際資源経済学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	生物機能化学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	食品機能科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	生物機能化学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	食品機能科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	先端応用生命科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	生物環境保全科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	水産資源環境科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
環境資源学	生物環境保全科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	食品機能科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	先端応用生命科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	生物環境保全科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	水産資源環境科学特別演習	2	30	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	地域資源環境工学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	地域資源環境工学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	水産資源環境科学特別研究	6	90	個別	○	主・副指導教員	○	○	○
	国際農学特別講義	1	15	集中講義	●	各構成大学で開講	○	○	○
	人財養成学生支援セミナー	1	15	集中講義	●		○	○	○
広領域	熱帯・亜熱帯資源活用論								
	先端生命科学論								
	食品安全管理論								
	生態環境保護論								

鹿兒島大学大学院連合農学研究科規則(抜粋)
(教育方法)
第9条 研究科の教育は、学位論文の作成等に対する指導及び共通セミナーによって行うものとする。
2 学生は、主指導教員の指示に従い、研究題目を定め、速やかに別記様式2により研究題目及び研究計画を主指導教員に届けなければならぬ。なお、研究題目及び研究計画を変更するときも同様とする。
3 前項の届出を受けた主指導教員は、速やかに別記様式3の教育・研究指導計画書を作成し、研究科長に届けるものとする。
(学位の授与)
第10条 研究科の課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受け、かつ、60時間以上の共通セミナーを受講し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。ただし、研究科に1年以上在学し、必要ない研究指導を受け、かつ、30時間以上の共通セミナーを受講し、研究科教授会が極めて優れた研究業績をあげた者と認められた場合も授与することができる。
2 前項に規定するものほか、研究科の課程を修了し、その卒業に合格し、かつ、研究科の課程を修了した者と同等以上の学力を有することが確認された者にも博士の学位を授与することができる。ただし、提出された学位論文は、研究科の課程を修了し、学位を授与された者と同等以上の内容を有していなければならない。
(専攻分野)
第11条 前条の学位を授与するに当たっては、次に掲げる専攻分野の名称を付記するものとする。
農学
水産学
学術
2 前項の規定において「学術」を付記する場合は、研究科において学際領域等の分野を専攻した者で、研究科教授会が適当と認めるとき、又は学位論文の内容が学際領域等の分野であると判断される場合で、かつ、研究科教授会が適当と認めたときとする。
3 「学術」を付記する場合は、研究科教授会が別に定める。

注) 通合農学 研究科は、従来、旧の鹿兒島大学大学院連合農学研究科規則(抜粋)の第10条に示すとおり、研究指導及び60時間以上の共通セミナーを受講することが修了要件の一つとなっており、左欄に示すような教育課程表は存在しないことから参考資料として本表に示す新旧対照表を添付する。